

# 【ねがいはしては】

第57号

平成5年8月25日  
共和珠算学習塾

毎年のように、今月はキャンプのことになってしまいます。

総勢33名で今年も行われました。冷夏の影響もあって4泊5日の日程も3日ぐずつき2日晴れといった天候でした。私自身の収穫と言え、10年余りも前のキャンプで味わった、あの感動場面をふたたび体験できたことです。

10年前、同じキャンプ場に、ある障害者施設の学園の団体が来ていました。私たちはその団体の方々と一緒になってキャンプファイヤーをさせていただきました。今年、またその同じ学園の方々と一緒にキャンプファイヤーをしました。ダウン症の子や発達遅滞の子たちとの楽しいひと時でした。

もちろん進行は、あちらの先生方に任せっきりです。その中の遊びの中で「大きいものを見つけよう」というのがあり、進行の先生が「では、私が今から言うものよりもっと大きいものを見つけてください」「では、ゾウより大きいものー？」すかさず私たちの生徒たちも「ハイハイ」と、大きな声で手をあげる。そして学園の子たちも「ハイハイ」と手をあげる。そして私たちの子のひとりがさされて「大宇宙！」・・・「アチャー」と心の中で私は叫びます。「もうちょっと小さいものから言ってよ」と、心の中で私・・・そうすると、もう学園の子たちはパニック。「エー、アー」「まだまだ大きいものはありますか？」と進行の先生。「ハイハイ」と今度は学園の子がニコニコと手をあげた。「ハイッ、では〇〇くん」「とうきょうえき・・・！」

もう私の心の中は『感動』のあらし。あの笑顔で、体全体で「とうきょうえき・・・」私は拍手しながら泣いていました。全身で、100%で、自分を出しきっている学園の子の姿に「人」の文字が強烈に浮かびました。私は共和の子たちに自分の人としてのスケールの大きさと、あの学園の子たちのスケールの違いに気づいてほしいと話しました。そしてみごとに私たち全員があの子たちに打ちのめされたことに気がついてくれたかな？

そして、一緒に手をつなぎ跳ね回っていたあの子たちのおかあさんの明るさに・・・。

キャンプファイヤーの最後にひとりひとり全員が全員で握手をして「さようなら」「ありがとう」を言いました。あの手のぬくもりを「みんな！」忘れないでください。

みんな「人」なのです。

このキャンプの最後の最後まで全力で手伝ってくれたスタッフのお二人に心からお礼をいいます。「ありがとう」そしてその他の、目に見えない協力をしてくださった方々に、こころから「ありがとうございます」

今、教室では学習科の小学部で本読みを続けています。「兎の眼」灰谷健次郎さん名作です。その中に出てくる「みなこちゃん」にそそぐクラスのみんなの温かい「こころ」を育ててほしいと思います。なぜならキャンプに来ていた学園の子たちはみんな「みなこちゃん」だからです。

現在、この「兎の眼」を宝物にして学校の先生を目指している教え子がいます。武田美穂さんです。彼女はこの本を2冊持っているそうです。1冊は何度も読むための本、もう1冊は大切に新品のまま大切に保管しているそうです。彼女は今年春から私の教室を手伝ってくれています。毎日忙しいのに、いつもニコニコと元気です。きっと兎の眼の中の「小谷先生」を目指しているのかな、そして私と言え、やっぱり兎の眼の中の「足立先生」かな。

☆9月の予定

9日（土）検定試験受付締め切り

25日（土）下級（4～10級）検定試験・・・共和珠算塾

26日（日）上級（段～3級）検定試験・・・中央商業高校